



NPOフォーラム・だより

4

NPO法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム
〒294-0047 千葉県館山市八幡 822 TEL&FAX:0470-22-8271
npo@internet-ex.com <http://www.internet-ex.com/npo/index.html>

『あわ・がいで』～房総里見氏』発行！

待望の『あわ・がいで ～房総里見氏』が誕生しました。編集・執筆は「里見氏稲村城跡を保存する会」メンバーでもある石井明子さん、石崎和夫さん、金久ひろみさん、島田輝弥さん、城郭イラストは愛沢彰子さんです。松田屋書店、宮沢書店にて定価600円で販売中（郵送も可）。**たてやま夕日海岸ホテル**では、フロントでNPOメンバーといえ、**500円**でOKです。安房の里見氏城跡群は研究家の間から評価が高く、たいへん貴重な文化財です。里見氏関係のツアーガイド依頼も増えています。ぜひ、この本を読んで、安房の財産を次世代の子どもたちに手渡しましょう。



「里見ウォーキング」「南総里見まつりフォーラム」&「房総里見会」

10月9日(日)、里見ウィークの幕開けとして、**第5回里見ウォーキング**がおこなわれました。館山地区にある里見氏関係の文化財や戦争遺跡などをポイントごとにガイドスタッフが解説をするスタンプラリーで、好評を博しています。朝から雨模様だったため、参加者は約50人でしたが、皆さんとても喜んで帰られました。スタッフの皆さん、たいへんご苦労様でした。戌年の来年お正月には、TBSドラマ『里見八犬伝』を皮切りに、私たちNPOでも、2月4日には「**里見紀行**」、18・19日にはJRのデスティネーションキャンペーンで「**里見八犬伝ハイキング**」、3月12日には「**里見の道ウォーキング**」と続きます。

同日夜、全国里見一族会との連携を図り、稲村城史跡化への大きな1歩を踏み出すために、「**房総里見会**」が発足しました。会長はNPOミュージアム安房代表で日舞里見流家元の里見香華さん、副会長兼事務局長は鈴木恵弘さん。12月には全国里見一族会に出席して交流をもち、NPOと連動しながら、歴史から未来へ...のネットワークが広がります。

ガイドに関するお知らせ

連絡が行き渡らず、ご迷惑をおかけしています。当面の日程は以下の通りです。すでにガイドが入っているところでも、勉強がてらサブガイドとしての同行は大歓迎です。印はとくにガイド募集。よろしく願いいたします。佐藤さんのご助言により、**雨天に備えて傘15本**をホテルの備品室に用意しましたのでご利用ください。

- 11月23日(水)10:30～14:30 横浜市立高校研究集会11名 戦跡スタディツアー(赤山・かにた村)
午前:講演(愛沢・池田) / 午後:見学(ガイド:蓮沼・小沢)
- 11月27日(日)9:30～12:00 館山地区公民館戦跡サークル
館山地区MAPづくり～戦時中の街並みや戦争の傷跡を訪ねて歩きます。(館山地区)
- 11月28日(月)10:00～11:00 原町市遺族会 40名 赤山見学(ガイド:佐藤・金久)
- 12月2日(金)10:30～15:20 市原市立市津公民館 50名 戦跡スタディツアー(赤山・かにた村)
午前:講演(愛沢・池田) / 午後:見学(ガイド:金久)
- 12月8日(木)13:00～16:30 県商工会議所青年部 20名 戦跡スタディツアー(基本コース)
午前:講演(愛沢・池田) / 午後:見学(ガイド:金久)

スタディツアー：「松代大本営地下壕」と国指定文化財「松代城」をたずねて

< 沖縄と松代と館山から見える戦争の足跡 >

2005年10月5～6日にかけて、NPOメンバー18名で長野県の松代大本営を訪ねました。戦争遺跡保存全国ネットワークの島村事務局長に案内された松代の象山地下壕は、規模も掘り方も赤山とはまったく異なる様相です。捨石となった沖縄戦の一方で、国体護持のために天皇を松代へ移転させる計画は、安房の本土決戦に備えた帝都防衛体制の進捗状況が大きく影響していたということを知り、参謀総長・杉山元(はじめ)が現地調査で安房を訪れたという証言が改めて信憑性を帯びてきました。

夜の交流会では、松代大本営を保存する会の女性たちによる朗読劇『松代の女たち』が披露され、お互いの活動報告などでエールを送りあいました。ぜひ、安房でも朗読劇を！脚本を募集中。ネタでもOK。

< 蘇った松代城と城下町のまち並み >

市が観光投資をおこなったという松代は、まち並みが整備され、みごとに城下町が復元されていました。山々に囲まれた盆地の住宅街にある松代城は、「えっ？これが国指定？」「これだったら、稲村城はやっぱり国指定の価値はあるよね」という感想も。。 帰途立ち寄った上田市の無言館では、特攻などで若く命を落とした美学生たちの遺作に固唾を呑みました。どんな思いでキャンパスに向かっていたのだろうか、胸に迫るものがありました。 企画してくださった有志の皆さん、本当にありがとうございました。

教育研究集会「命をかんがえる」 ... 11月27日(日) 14:00～16:30 安房教育会館

高校教員組合安房支部主催で、NPOフォーラムが共催。前半の講演は、千倉町の花の谷クリニック院長の伊藤真美さんの講演「地域のなかの緩和医療の現場から」です。ここでは、余命宣告を受けた患者さんの入院施設であるホスピス機能と、ふつうの内科外来診療、在宅介護の往診、デイケアサービスなどをおこなっており、医療と福祉と境界線を越えたケアを実践しています。

伊藤院長の報告を受けて、後半は教員と市民が膝を突き合わせて、「命を考える」グループディスカッションの予定です。参加費は無料ですので、ぜひ多くの方のご来場をお待ちしています。

かにた婦人の村バザー 支援依頼 ... 12月3日(土)

「噫従軍慰安婦」の碑や128高地「戦闘指揮所」壕などがあり、私たちの活動の原点ともいえる婦人保護施設「かにた婦人の村」では、年に数回バザーをおこなっています。NPOとしても、日頃のお礼をこめて、心あるメンバーがお手伝いに行ってくさっています。

今回は12月3日(土)、参加できる方はNPO事務局(池田)までご連絡をお願いします。

駐車場整理係 ... 8:30～13:00頃

販売係 ... 8:30～16:00頃 / 10:00～14:00頃

バザーの売上は、かにた村運営のスタッフ人件費や世界の恵まれない方々への支援に充てられます。

“青木繁 海の幸 100年”から布良・相浜を見つめる集い

... 12月4日(日) 10:00～12:00フィールドワーク / 13:30～16:00集い(富崎小学校)

明治の鬼才・青木繁が館山市布良で国宝『海の幸』を描いたのは、1904年。奇しくも100年後の2004年、NPOメンバーでもある彫刻家の船田正廣さんがレリーフ『海の幸』を製作しました。東京・ブリヂストン美術館では特集展示「青木繁 海の幸 100年」をおこない、ゆかりの深い全国各地でも同様の催しが開かれています。今回、NPOメンバーの豊崎さんをはじめ地元富崎地区の連合区長会とコミュニティ委員会との共催により、「布良・相浜の“海の幸”を語る会」として地域の魅力を発掘する集いを企画しました。NPOメンバーの皆さんはスタッフとしてのご協力をお願いいたします。